第Ⅳ部 協働イベント型の学校

7 まちは学校

1. 教育的価値高い生徒の地域活動

現在、地元自治体のイベントや福祉施設、民間ボランティア活動などに、生徒会を中心に通年的にボランティア参加をしています。この活動は、キャリア教育の視点からも、体験によって学習を深め「生きる力」を育てる点でも、また生徒の居場所（活躍の場）づくりの点からも大変教育的価値が高く、今後も一層この活動を拡充すべきと考えます。

2. 地域活動に貢献する様々なボランティア活動の展開

(1) 地域の祭りを若い力で盛り上げます

生徒会・ボランティア部や「社会探究コース」の生徒たちが軸になって弥富市「春祭り」「盆踊り」「健康フェスティバル」などに取り組みます

(2) 幼児教育支援事業及び高齢者および障害者支援事業

「社会探究コース」の生徒やボランティア部を中心に推進します。

(3) 校外清掃ボランティア

地元小学校児童会や中学校生徒会と連携して生徒会を中心に進めます。

3. 地域の生涯教育に貢献する活動の展開

(1) オープン講座

現在、年2回の「オープン講座」を開設し、地域住民のみなさんや中学生のみなさんに多数参加していただいております。「コンピュータ入門」や「太極拳」「料理」「コミュニケーション」などの多様な講座を開設しています。生徒は「オープン講座生徒事務局」を立ち上げ、講座の発掘や企画・運営にあたります。

(2) 講演会

毎年の学園祭（オータムフェスティバル）には、大平光代さん、谷亮子さん、舞の海さんら、名のあるゲストをお迎えして特別講演会を実施し地域のみささまに喜んでいただいております。

(3) フィールドワーク

スクールバスを活用してのフィールドワーク（年6回、岐阜県八百津町・杉原千畝記念館、安曇野ちひろ美術館、奥三河・花祭り、長野県上田市・無言館など）に、これまでに279人の地域のみなさんがご参加くださり好評のうちに8年を経過しています。

(4) 国際交流&国際理解教育支援事業

「国際探究コース」が行政と協力して市民の方々と国際交流を進めます。現在、アメ

リカやオーストラリアからの短期留学生を迎える国際交流週間を弥富市と共同開催し、市民の方々がホストファミリーを引き受けてくださっています。

(5) スポーツ交流

スポーツコースの剣道部、駅伝部などは、「愛西学園杯」「弥富市健康フェスティバル駅伝大会」などにより、地域の中学生との交流を深めています。

4. 地域の環境、文化、産業、伝統を学ぶ

(1) すでにいくつかの講座・科目では、「野菜づくり」で地元農家の方を講師にお招きしたり、「伊勢湾台風」について区長さんからお話を伺ったり、「食品衛生・管理」について地元スーパーのご協力をいただいたりしながら学びをすすめています。

(2) 「受験学力」に特化することなく、「生きる力」を育て、地域社会に貢献する次世代市民を育てる上で、地域の特性を生かした学習活動は極めて重要であり、有益です。今後、さらに地域の環境、文化、産業、伝統を学ぶ活動を強化すべきと考えます。

例えば弥富市の場合、次のような地域特性に基づき多くのことを教科横断的に学ぶことが可能です。

学校の立地する弥富市は愛知の西南に位置する自然豊かな水郷地帯。たゆまぬ水との闘いの末に築かれた豊かな歴史・文化・産業そして人。生きた題材としてそれらを学習に活かします。

- ① 豊かな自然とともに生きる水郷のまち
伊勢湾に流れ込む幾多の河川とともに生きるまち
水との闘いの歴史、伊勢湾台風を体験したまち
愛知県で最も早い米（早稲）の出荷
- ② 金魚生産日本一のまち
金魚を特産とし、日本一の養殖数を誇るまち
- ③ 環境保全に力を入れるまち
ゴミ処理・尿尿処理施設の存在ほか
- ④ 防災に力を入れるまち
海拔0メートル地帯の東南海地震対策
- ⑤ 健康づくりに力を入れるまち
「生涯健康のまちづくり構想」と「スポーツ振興」
秋の健康まつり、基幹病院（海南病院）、本校看護科

5. 地域医療を支える

(1) 本校衛生看護科は開設45周年を迎えました。この間3,628人の准看護師を地域に送り出しています。

(2) 看護師不足が叫ばれる今日、地域の病院等で現場医療を支える看護師を育てる衛生看護科の役割はますます大きいと考えます。

(3) 全日制看護科（5年一貫）の開設は大いに期待されるところです。

6. 地域産業を支える

(1) 地域との提携は、キャリア教育の点で有益であると同時に、地域産業を支える人材を輩出するという点でも意味が大きいと考えます。

(2) 地域産業との提携をすすめることは本校の進路指導にとっても有益です。

(3) インターンシップなどに積極的に取り組みます。

7. 防災センターの一翼を担う

(1) 震災、豪雨などに対する地域防災機能の一翼を担うことが学校に求められます。現在、「防災マニュアル」を作成中ですが、生徒のみを対象とするのではなく、地域防災の視点も取り入れたものにする必要があると考えます。

(2) 耐震対策の施された体育館が地域の避難所の役割を果たさなければなりません。又、旧校舎の耐震補強を拡充して3階以上を津波対策避難場所とすべく計画策定中です。

(3) 非常食や非常装備を備えた備蓄庫が自治体との提携の下で避難所（体育館）近くに（キャンパス内に）設置されるのが望ましいと考えます。

8. 「広場」としての学校づくりフォーラム

(1) 2001年に始まった「学校づくりフォーラム」は2012年1月で64回を数え、新しい学びを創造する学校づくりの時間を積み重ねています。

(2) 商工会長様や元区長様など地域を代表される方々や大学から教育学部の先生をお迎えして、生徒、保護者、教職員がともに協議するこの場は、今後も本校の進むべき道を示す重要な「広場」であり続けるでしょう。

(3) 「地域の学校」づくりの中核として、一層の充実を図りたいと考えます。

9. 弥富市と学園の定期協議会の発展

(1) 2010（H22）年度より、弥富市と本校の間で「定期協議会」が開かれています。市側からは主要部局の部長さんら5名、学園からは校長、教頭、教務主任、主幹、生徒会顧問、地域父母提携部長らが参加して、年4回なごやかな話し合いが続いています。

(2) 主な協議事項は、国際交流週間（日程や歓迎会等企画）、弥富市健康フェスタ駅伝大会、環境活動・学習推進事業、エコキャップ活動などです。

(3) 地域と学校が協働して教育づくり、地域づくりに取り組むことの教育的意義ははかりしれません。一層の発展をめざします。

10. 地域の教育文化交流拠点としての学校へ

*地域に開かれ、生涯学習・環境教育・国際交流等の地域センター機能を有し、防災センターの役割も担う、地域の教育文化交流拠点としての学校をめざします。